

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

＜認知症対応型共同生活介護用＞

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	0673000493
法人名	有限会社 和(のどか)
事業所名	グループホーム のんき
訪問調査日	平成 20年 11月 18日
評価確定日	平成 20年 12月 17日
評価機関名	株式会社 福祉工房

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月17日

【評価実施概要】

事業所番号	0673000493		
法人名	有限会社 和(のどか)		
事業所名	グループホーム のんき		
所在地 (電話番号)	山形県東田川郡三川町大字猪子字下堀田230番地1 (電 話) 0235-68-1750		
評価機関名	株式会社 福祉工房		
所在地	宮城県仙台市青葉区国見ヶ丘6丁目149番地		
訪問調査日	平成20年11月18日	評価確定日	平成20年12月17日

【情報提供票より】(平成20年11月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14年 9月 16日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤 12人, 非常勤 0人, 常勤換算 6人(1ユニット)	

(2)建物概要

建物形態	併設 ／単独	新築 ／改築
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての 階 ～ 1 階部分	

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円		その他の経費(月額)	12,000 円	
敷 金	有(円) 〇無				
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円) 無		有りの場合 償却の有無	有/〇無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円	
	夕食	300 円	おやつ	100 円	
	または1日当たり 円				

(4)利用者の概要(平成20年11月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低 64 歳	最高 93 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	池田医院、谷家歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者のペースに合わせたのんびりした雰囲気与生活できるよう心がけており、和風の建屋の中で落ち着いた暮らしが出来ている。併設する法人内の別のグループホーム及びデイサービスと連携を持ちながら運営されており、対応の幅も広がっている。地域との連携にも力を入れており、来年度には隣接した場所に保育園を設置する予定にしており、利用者と園児との交流や、父兄を通じた地域への融和を計画している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	重度化に対する指針は今期に作成しており、重要事項説明書とともに家族に説明するようになって来ており、職員にも共有が図られるようになってきている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	過去の資料をもとに管理者が作成し、職員全員に配布し確認している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	「あつとホームのんき」と「のんき」の共同で実施している。定期的(2ヶ月に1回)に開催していたが、今年度は不定期となっている。開催時には家族からの意見、外部評価の報告、ヒヤリハットの報告等を行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会の多い家族からは意見や要望がある。意見はサービス向上の為、又改善に向けて対応している。又、事業所に来所した人達にはアンケート方式で意見を聞いている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	お祭りや小学校行事(学校祭)には積極的に参加している。又、ボランティア研修の受け入れもしている。又、来年には隣接して保育園を設置することを計画しており、これを機会に更に地域との交流を活性化させる予定になっている。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	和(のどか)で作った理念をもとに、職員と話し合い、BS法を利用し作成した。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の職員会議(2時間程)で社長から理念を話され確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	お祭りや小学校行事(学校祭)には積極的に参加している。又、ボランティア研修の受け入れもしている。又、来年には隣接して保育園を設置することを計画しており、これを機会に更に地域との交流を活性化させる予定になっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	過去の資料をもとに管理者が作成し、職員全員に配布し確認している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	「あつとホームのんき」と「のんき」の共同で実施している。定期的(2ヶ月に1回)に開催していたが、今年度は不定期となっている。開催時には家族からの意見、外部評価の報告、ヒヤリハットの報告等を行っている。	○	参加者メンバーの検討及び、開催方法を検討し、定期的に開催されることが望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域密着型事業推進会議に積極的に出席し、市の担当者と意見交換をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「のんきだより」は不定期で家族に送付している。金銭出納については面会に来た時に確認してもらっている。又、近況の話も面会時に説明している。遠方の家族には電話で対応している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の多い家族からは意見や要望がある。意見はサービス向上の為、又改善に向けて対応している。又、事業所に来所した人達にはアンケート方式で意見を聞いている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	「あつとホームのんき」と「のんき」の交流があるので、それぞれの職員と利用者との顔なじみの関係が出来ており、異動があった場合でも、利用者にとってのダメージは少ない。又、異動決定後1週間から10日の準備期間があり、その間に更に馴染みとなるような関係を作っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は月1回職員会議の中でテーマを設定し、グループワークをしている。又、外部研修に参加した時も職員会議で報告し伝達研修を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会(庄内支部)に参加している。交換研修の実習は事業所からは出していないが、受け入れはしている。施設見学希望の事業所とは相互訪問し、情報交換している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者とは料理や、干し柿作り、畑仕事などを教わりながらともに作業しており、コミュニケーションを取りながら生活をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望、意向の把握は事業所独自様式を利用して、職員、個々に利用者をアセスメントしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の家族からの希望を取り入れ担当職員等の意見も取り入れ作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状況に変化が見られプランの見直しが必要になった場合には見直しをしている。3ヶ月～6ヶ月には見直ししている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	家族が通院同行する時には、事業所より日頃の利用者 の状況を提供している。協力医には夜間、往診にも対 応していただいている。職員が同行した場合は当日中 に家族に電話により報告を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	指針を作成して、契約時に重要事項説明書とともに家 族にも説明し、全職員にも周知している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	月1回の職員会議に於いて社長より必ず話される。又、 日々タイムリーに管理者が指導している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望にはできる限り対応している。又、利用者 のペースに合わせ、支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューは、利用者、職員と相談しながら決めている。又、利用者が作っている畑からの野菜等も食卓に出る時もある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	家庭の継続との考えから、365日PM4:00以降の入浴を基本としている。希望により随時入浴も行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑を作っている利用者は冬期は他の役割を持てる工夫をしている。利用者一人ひとりの存在する場面があるように工夫している(後片付け、買物、畑仕事)		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	冬期はデイサービスの送迎の時、同行して戸外に出かけられるようにしている。又、近くにあるスーパー(ジャスコ)に毎日外出希望者と買い物に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	玄関は朝7時から夜21時頃まで開けている。外出願望者には、職員と一緒に出かけるようにしている。外出願望についても理由を分析するようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、自主点検又夜間・昼間を想定して訓練している。(防災訓練計画をつくっている) 又、AEDの使用は消防署の協力で行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は基本的には主任が中心になってつくっている。利用者の希望や、季節の食材を取り入れている。食事摂取量、水分摂取表を作成し、摂取量を把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりと落ち着いて過ごせるように大きな窓と広めの共有スペースになっている。中庭も紅葉して季節感が感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	物品の持込は利用者、家族の自由選択である。家族の写真等を飾る等の工夫をしている。		